

# 日点委通信

No.27

2011年11月1日発行

## 日本点字委員会ホームページ9月1日スタート

日本点字委員会事務局長 とうやま ひらく 当山 啓

かねて日点委内外から要望があった日本点字委員会のホームページ開設について、昨年の第46回総会の決議により、開設検討委員会を設置し検討を重ねました。その検討結果を第47回総会で提案し、開設することが決定されました。その後、開設に向けて準備作業を重ね、9月1日にホームページを一般公開しました。

そのURLは、<http://www.braille.jp/>で、それにアクセスするとトップページが開きます。トップページのメニューには、「お知らせ」「日点委とは」「書籍・資料」「点字の話題」「構成団体一覧」があり、開設時の内容は以下のようになっています。

お知らせ：「ホームページ開設にあたって」

日点委とは：日点委の概要として、「日本点字委員会について」「会則」「日本点字委員会沿革」「委員・役員の変遷」「委員・役員名簿」があります。

書籍・資料：日点委発行の単行本および「日本の点字」の内容紹介、各種資料

点字の話題：2008年に発行したパンフレット「点字を読んでみよう」

構成団体一覧：全日本盲学校教育研究会に所属する学校、日本盲人社会福祉施設協議会の点字出版部会・情報サービス部会に所属し点字に関するサービスを行っている施設を、都道府県別に掲載しています。（各団体にリンクを張らせていただきましたので、ご了承ください。）

これらのうち、「日本の点字」の第1号～第30号の点字データなどダウンロードできる資料もあります。

このホームページは、音声環境にもほとんど対応し、文字の大きさの選択や色反転もできます。そして書籍の購入注文や問い合わせができるようになっています。

どうぞご活用ください。

## 医学用語の点字表記について

医学用語点字表記専門委員会委員長 渡辺 勇喜三<sup>ゆきぞう</sup>

来春、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家試験は、第20回を迎える。その国家試験出題に使用される点字の表記と、普段全国の視覚支援学校並びに諸施設において使用されている点字教科書の表記とが統一されるよう望まれていた。2007年6月、日本点字委員会（以下「日点委」）第43回総会は、医学用語点字表記専門委員会（以下「医点委」）の発足を決議し、7人の委員を木塚会長が選任した。それから4年間に15回にわたって医点委は会議を開き、中間報告を日点委総会に2度行っている。そして今年6月5日、日点委第47回総会に、以下の内容を盛り込んだ答申を行い、医点委は会長より解任のご発言をいただいた。

答申の内容は

- 1 医学用語切れ続きの指針
- 2 促音、数字表記について
- 3 数字を含む経穴等の点字表記
- 4 同音異穴の点字注記
- 5 漢方薬などの名称の切れ続きについて

となっている。

今後この答申は、東洋療法研修試験財団、日本理療科教員連盟、日本盲人社会福祉施設協議会点字出版部会に送られ、「日本の点字」第36号にも全文が掲載される予定である。

4年間にわたる討議の中で、7人の委員の意見や見解が全会一致ということに至らなかった点もあったことは事実である。今後ご意見があれば寄せていただき、不十分な事柄を充実させて、よりよい医学用語点字表記へ発展するよう願っている。

## 日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、2011年6月4日（土）・5日（日）の両日、日本ライトハウス情報文化センター（大阪市西区江戸堀）において、日本点字委員会研究協議会並びに第47回総会を開催し、次の事項を協議した。出席者は53名。

### 総会審議事項

1. 小林一弘副会長の辞任が承認され、後任に金子昭委員が副会長に就任した。
2. 各専門委員会について

(1) 医学用語点字表記専門委員会：今回「医学用語切れ続きの指針」等に関する最終答申を行い、総会の決定をもって解散する。

(2) 点字科学記号専門委員会：加藤俊和委員から委員長辞任の申し出があり、承認された。委員長人事は会長預かりとし、質問への対応、実務など必要などときには加藤委員にお願いする。正式に委員長を選べるように努める。

(3) 点字楽譜専門委員会：本日をもって解散する。点字楽譜の手引等の編纂が日点委において必要となったときは、編纂委員会を立ち上げる。

3. 世界点字協議会（WBC）に関する報告（田中徹二）

第1回会合を一昨年、マドリッドで行い、その方向性を決めた。今年9月の「点字21」（於・ライブチヒ）の開催、ユネスコから発行されている“World Braille Usage”（世界の点字の一覧表）の第3版の発刊、などである。「点字21」において日本からのアピールをしようと考えている。

4. 『ルイ・ブライユ — 天才の手法』翻訳・出版について（金子昭）

日本点字制定120周年（2010年）記念出版として、National Braille Pressから2006年3月6日に発行された C. Michael Mellor著、“Louis Braille: A Touch of Genius”を発行する。今その翻訳を進めている。

5. ホームページ準備に関する報告・提案と運営担当者の選出

①ホームページを開設する。②会長よりホームページ担当者6名が指名された。

### 研究協議

1. 『日本点字表記法』における書き方の形式等に関する検討（継続議案）

第45回総会に近点研から提案された標記の課題について、日点委関東小委員会、および関東地区点字研究会から検討結果の報告があった。脚本や対談のレイアウトについて、問題点のあることを確認して、次に進むこととした。

## 2. 外字符で書き表すことができる用例の追加および変更に関する提案

近畿点字研究会より、現行「表記法」2章3節9.の【注意1】の規則「略称と単語との区別がつきにくい場合などでも、外字符を前置して書き表してもよい」の「など」の範囲を「もう少し広くしたい」という趣旨の提案があった。継続して研究していくこととした。

## 3. 「日本点字表記法のあり方」検討に関する特別委員会の設置について

下記のとおり承認された。

(1) 諮問内容：「日本の点字」第35号特集に寄せられた意見、今総会で出された意見を基に次の項目について検討し、次回総会に答申する。①日本語の点字表記の「日本点字表記法」での位置づけ、②専門分野の点字表記の「日本点字表記法」での位置づけ、③書き方の形式等の「日本点字表記法」での位置づけ、④墨字書の点字化の扱い、⑤「参考」の扱い。

(2) 委員会：委員は5名程度とし、日点委委員・事務局員・会友の中から委員を公募する。

(3) 設置期間：今総会から次回総会まで。

[後日、7名の委員から応募があり、全員が会長から委員に指名された]

## 4. 「医学用語切れ続きの指針」等に関する最終答申

医学用語点字表記専門委員会より、「はじめに」「医学用語切れ続きの指針」「促音、数字表記について」「数字を含む経穴等の点字表記」「同音異穴の点字注記」「漢方薬などの名称の切れ続きについて」の各項目にわたって報告が行われた。専門分野の範囲において、医学用語の点字表記についてこの答申に添って運用する。今後この内容を「日本の点字」に掲載するなどして広報するとともに、関係機関に周知する。

## 5. 「文節関係と分かち書き・複合語の切れ続き・固有名詞などの切れ続き」の

### 提案

木塚泰弘委員より、次の提案があった。《点字仮名では、文の最小単位である文節を、分かち書きと切れ続きの説明に用いることが必要である。点字は触読者が必要とするものなので、触読者が「読みよく、書きよく、わかりよく」しなければならない》。この提案を各地域委員会に持ち帰って検討することとした。

### 日本点字委員会事務局

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 日本点字図書館内  
電話 03(3209)0671 FAX 03(3209)0672 郵便振替 00100-1-42820  
ホームページ <http://www.braille.jp/>